

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.35

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Butch Warren 【ブッチ・ウォーレン】



butchwarren.com

Profile

1939年8月9日、米国の首都ワシントンDCで生まれる。本名はEdward Rudolph Warren Jr.。電気技師でピアニストだった父親とCIAのタイピストで歌手だった母親のもとで音楽に囲まれて育つ。14歳の時に父エドワードのバンドでプロとして活動始める。地元ワシントンDCを拠点に活動し、スタッフ・スミス、リック・ヘンダーソン等と共演。58年ケニー・ドーハムとの共演をきっかけにニューヨークに進出。1960年代はブルーノートのハウス・ベーシストとして活躍し、ジョー・ヘンダーソン、ジャッキー・マクリーン、スタンリー・タレント、ドナルド・パード、ハービー・ハンコック、デクスター・ゴードン、ソニー・クラーク、マイルス・デイビス等と共演。63年から翌64年までセロニアス・モンク・カルテットのメンバーとして活躍し、63年にモンクと共に来日を果たす。その後、地元ワシントンDCに戻り、65年から66年まで朝のTVトーク・ショー『Today with Inga』に番組のハウス・バンドのメンバーとして出演。2011年『French 5tet』、2012年『Butch's Blues』と生涯2枚のリーダー作品を残した。50~60年代のハード・バップ期に活躍し、サイドマンとして数々の名盤に名を連ねた。2013年10月5日、肺がんのため米国メリーランド州シルヴァー・スプリングのホリー・クロス病院で死去。享年74歳。

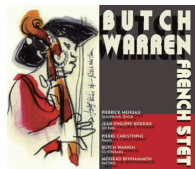
ブルーノートのハウス・ベーシストでもあった名ベースマン

1958年にケニー・ドーハムに見出される形でニューヨークに進出し、60年代にはブルーノートのハウス・ベーシストにまでなったブッチ。その代表的なプレイのひとつとして、ハービー・ハンコックのデビュー・アルバム『テイキン・オフ』に収録の名曲「ウォーターメロン・マン」が有名だ。ジャズ・ベーシストとしての知名度は決して高くはないが、そのいぶし銀の存在感はジャズ史を飾る数々の名盤に刻まれている。1963年5月にセロニアス・モンク・カルテットのメンバーとして、チャRLIE・ラウズ (ts) とフランキー・ダンロップ (ds) と共に来日を果たしたブッチは、当時23歳で新進のベーシストだったこともあり、滞在したホテルの部屋でも練習に余念がなかったようだ。

自身のリーダー・アルバムは晩年70歳を超えるまでリリースすることはなかったが、粹で職人的な佇まいとそのベースマン魂は永遠だ。

BW's Great Albums

リーダー・アルバムは晩年に録音した2作品（下記参照）のみだが、サイドマンとしてはここに紹介した2作品以外にも数多くの名盤で玄人好みの渋い名演を残している。



French 5tet Butch Warren

(Black & Blue : B-J95809 [Import CD])

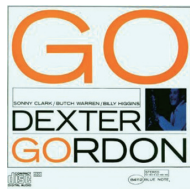
2011年録音。ツアーでフランスに訪れた際に現地の4人のミュージシャン達とパリで録音したブッチの1stリーダー・アルバム。全8曲を収録。



Butch's Blues Butch Warren

(© 2012 Butch Warren [Import CD])

2012年1月にリリースされたブッチの2枚目となる最後のリーダー・アルバム。地元ワシントンDCのミュージシャン達と録音した全8曲を収録。



ゴ デクスター・ゴードン

(ユニバーサル・ミュージック : TOCJ-7029)

1962年録音。デクスター・ゴードンが自ら最高傑作と認めているアルバムで、ブルーノートの名盤。ブッチのいぶし銀の存在感を放つベースも光る。



マイルス&モンク・アット・ニューポート マイルス・デイビス

(ソニー・ミュージック : SRCS-9732/3) [廃盤]

1958年のニューポート・ジャズ・フェスティバルの音源で、マイルス・セクステットとブッチ参加のモンク・カルテットの演奏を別々に収録した作品。